



2014.March



今号の内容

**学園を巣立つ前に** 情報基盤センターよりおしらせ  
社会へ羽ばたく! 卒業生・修了生からの言葉

これにちは附属です。～教育の現場から～

**防災訓練** 大切な日頃の備え

**対談** 漫画というメディアを通して ほか

学園だより

G A K U E N D A Y O R I

空飛び夢と言葉の重力	学 長 田中 雄三		1
学園を築立つ前に			2
4年間を1字で表すと?	学校教育学部	国語科教育コース	
大学生活を振り返って	学校教育学部	音楽科教育コース	
素晴らしき鳴門教育大学	学校教育研究科	横澤 達也	
2年間を振り返って	学校教育研究科	陳 以樸	
大学院生活を振り返って	学校教育研究科	新居 浩	
2年間を振り返って	学校教育研究科	土山由莉華	
退職にあたって			8
船出		武市 勝	
思い出のアルバム		渡邊 廣二	
大切にしてきた人生訓		岩佐 博久	
出合いに感謝して		森住 利夫	
国際交流			10
JICA受託研修とのかかわり		小澤 大成	
留学生の個性溢れるイベントー世界の民族衣装ファッション・ショーー		綱本 麻希	
Observing everyday life in Japan ー日本の日常生活ー		Szakács Ádám	
交流学生による大学紹介 ー南アフリカ共和国 プレトリア大学ー		SHUMI THOKOZILE REBECCA	
こんにちは附属です			14
平成25年度幼児教育研究会	附属幼稚園	佐々木 晃	
附小の使命とは	附属小学校	林 隆宏	
あいさつにプラスαのメッセージ 生徒会	附属中学校	河野 昌紀	
高等部修学旅行	附属特別支援学校	平岡 保人	
学生会・院生会だより			16
学生会長として	学生会長	千葉 晃平	
1年を振り返って	院生会会長	鈴木 藍	
課外活動～サークル紹介～			18
硬式野球部 活動紹介	硬式野球部	小林 晴太	
鳴門教育大学陸上競技部です。	陸上競技部	徳寺 日和	
BBS	BBS	森下 翔太	
気軽にできるボランティア	ボランティア団体 friends	山口 暁子	
情報基盤センターよりお知らせ			20
	情報基盤センター所長	伊藤 陽介	
なるきょう通信ー大学からのお知らせー			22
総合学生支援棟OPEN!			
健康手帳			23
子どもの健康は母親の健康から	心身健康センター所長	廣瀬 政雄	
防災訓練関連			24
防災スタンプラリー&鳴門西小学校児童の避難訓練	現代教育課題総合コース		
防災訓練を行いました!	施設課		
図書館だより			26
活躍する在学生・卒業生 ー対談 漫画というメディアを通してー			27
在学生: 南郷 芙美 (学校教育学部 小学校図画工作科教育コース 4年)			
卒業生: 津々巳あや (漫画家/イラストレーター)			
サークル・リーダーシップ・セミナー, 学生表彰について			28
行事予定・編集後記			

# 空飛ぶ夢と言葉の重力

◆ 学長 田中雄三



若い頃はよく空を飛ぶ夢を見た。年をとると空を飛ぶ夢を見なくなった。夢を見ること自体が少なくなったようだ。青年期は全睡眠のおよそ20%～25%が夢を見ている睡眠（レム睡眠）である

という。乳幼児ではレム睡眠は約50%であるが、年齢と共にレム睡眠は減じる。睡眠中90分周期でレム睡眠（夢を見ている睡眠）が表れる。夢の精神生理学的意義は未だ解明されていない。ちなみに、動物にもレム睡眠があり夢を見ているであろうと推測される。

空を飛ぶ夢に話を戻す。ラカン派精神分析学者の新宮一成氏が、どこかで次のようなことを述べていたと記憶する。「空を飛ぶ夢は、子どもが言葉を獲得し、世界を自由に渉猟できると感じた喜びを象徴している」。これは一つの解釈であり、証明は出来ないが、私には腑に落ちるものがある。これまた曖昧な話で申し訳ないが、文学者の埴谷雄高氏は「言葉は世界を旅する乗り物、身体は精神を入れる頭陀袋」と言っていたような気がする。いずれにしても、この世界における言語の優位性を開陳しているものだと思う。「言語なくして思考なし」という命題は、精神医学のコモンセンスであると私は学んだ。ここで、20世紀最大の哲学者、ヴィトゲンシュタイン、Lを引用する。

ヴィトゲンシュタイン、Lは、「全ての真なる要素命題の陳述が世界を完全に記述する。全ての要素命題を陳述し、これに加えてそれらのいずれが真でありいずれが偽であるかを陳述すれば、世界は完全に記述される」と述べているが、これは要するに世界は言語によって分節され、記述されるということである。

一方では、私たちは誕生した時から、既に言語によって分節され構造化された世界に布置されている。精神科医の羽根晃らによると「間主観的にア・プリオリに存在する象徴体系が私たちの体験世界の現実をあらかじめ既に形作っている。私たちは分節され構造化された世界を破壊し、新たなコードを再編するだけの能力を持ち合わせていないので、既に構造化された世界の網の目の中で、つまり言語という網の目の中で主体を成立させ、構造化されるような存在として位置づけられている」という。羽根らの論文は難解であるが敢えて註解しない。言語の本質的な機能は「委任」と「虚構」にあるからだ。

それはさておき、学校教育の本質は何かと問うた時、それは言語を学習・修得させ、言語によって森羅万象を理解させ、人格形成を醸成し、様々な領域において子どもの創造性を伸ばし自己実現できるように支援していくことであろう。言語機能によるコミュニケーションこそが、学校教育において、本質的な働きを持っているのではないかと思う。教師の言葉には重力がある。それは長い時間をかけて子どもを呪縛する。げに教師という職業は恐るべし。どのような教師に出会うかは運命である。子どもは教師を選べない。学校教育の体系は、言語の網の目に似ている。不条理と言えば不条理であるが、ア・プリオリに存在する言語という象徴体系の中で自己実現を図っていかざるを得ないのが人間存在である。人間は、あらかじめ言語によって絡め取られた存在として誕生する。だがしかし、「言葉の乗り物」によって世界を旅することが出来る。すでに、グローバル化への準備はできているのだ。子ども時代に空を飛ぶ夢をよく見るのはそのことを象徴しているのではなかろうか。

# 学園を巣立つ前に

## 4年間で1字で表すと？

◆ 学校教育学部 国語科教育コース



### 「転」

4年間で漢字1文字で表そうという課題で、国語科13人で1文字ずつ出し合ってみました。「激」「万」「逃」「考」「時」「感」「国」「良」「貫」「恵」「挑」「積」「転」。奇しくも13人バラバラの漢字です。それぞれの個性というか特徴がよく表現されているなと思います。綺羅星のように輝く1文字ばかりが並び、一番大きくスペースを戴いた僕の1文字は恥ずかしながら「転」です。

貫くように、積み上げるように、挑戦するように日々の出来事を乗り越えていく同級生と違って、失敗と挫折を繰り返し、文字通り転げ回っていた4年間だった気がします。

しかし、転ぶ度に起き上がることができたのは、仲間に恵まれていたからに他なりません。小さな大学だけれど、沢山の出会いがありました。4年間共に泣き、笑った友人達。彼ら、彼女らに出会えたことは僕の人生の大きな「転機」になりました。

皆と別れることは寂しくて仕方ないですが、また会える日を心待ちにしています。この4年間があれば、何があっても大丈夫。

最後に、これまで私たちの大学生活を支えてくださった皆様ありがとうございました。

折井 茂太

**「激」**  
笑いあり涙ありの激動の4年間だったから！  
松尾実香

**「良」**  
とっても良い4年間でした。  
岡村扶美香

**「万」**  
沢山の人に会ったし、万里子先生にお世話になったから。  
原田裕子

**「貫」**  
4年間の反省と今後の目標。貫くこと。  
合田麻美

**「逃」**  
野球、教採、卒論からの現実逃避。  
渡部貴大

**「恵」**  
周りの人、いろいろな機会に恵まれた4年間だったから。  
矢出佳菜絵

**「考」**  
大学生は選択肢が多いから自分の行動を考えるように。  
門田 亮

**「挑」**  
色々なことに挑み、成長できた4年間でした。  
松井澄香

**「時」**  
時間の大切さを身を持って感じた4年間でした。  
山本修敏

**「感」**  
4年間金銭的・精神的に支えてくれた両親に感謝です。  
前田育美



**「国」**  
国語科にいながら、外国に行く機会があったから。  
古市佑介

**「積」**  
貴重な経験を積み上げてきたから。  
平野優紀子

# 学園を巣立つ前に

## 大学生活を振り返って

◆ 学校教育学部 音楽科教育コース

鳴門教育大学での4年間は、「自分」という人間に向き合い、また「音楽をすること」・「演奏をすること」について深く考えることができた大学生活でした。通学時、電車やバスに多くの人がぎっしりと詰め込まれ無意識のうちにストレスを溜めこみ、また、日々時計と睨めっこする生活とは違い、静かでゆったりとした時間の流れと緑豊かな環境、そして様々な場所で出会った徳島の人々が、私に成長を大きく促してくれたのだな、と改めて感じています。

みなさんは、外山滋比古さんの「グライダー」というお話をご存知でしょうか？私たちが鳴門教育大学を受験した際の小論文の課題として与えられたお話です。このお話は彼の「思考の整理学」という本に収録されているお話の1つである、ということ半年後、ふと立ち寄った書店にて知りました。偶然にも3年後、私はこのお話に教員採用試験の会場で再び出会うことになります。考えることができる人を“グライダー人間”，学校の勉強ができる人を“飛行機人間”と例えて、受動的に知識を得るのが前者，自ら物事を発明・発見するのが後者と書かれています。グライダーにエンジンを搭載し，グライダー兼飛行機のような人間になろう，というところから「思考の整理学」が始まっていくのですが，4年前，小論文の課題とは言え大変感銘を受けたことを今も鮮明に覚えています。

振り返ると2年生の前期まで，音楽と演奏に対して，グライダー人間だったなと思います。わからないことは何でも質問し，答えを求めることは，特に実技の分野では意味のないことなのだと，ゼミの先生から学びました。先生は，私の背中にエンジンの搭載を図られておられたのか，楽譜に書いてあることのご指摘はあっても，弾き方など技術的に困っている私の質問は，全て，「自分で考えなさい」と突き放されました。はじめはどうしたらよいか分かりませんでした。練習はしていても，ピアノを弾くことで音楽そのものが嫌いになるまで落ち込みました。あるとき，21歳で書道師範となり現在もあらゆる人に，様々な“書”のすばらしさを伝える母から一言，「芸術は心でするもの。大学で頑張っている技術はより多くの音楽を届けるための手段，もちろん大事だけど。出会った人の影響で今まで続けてきたことにピリオドを打つのはもったいない。昔はよく聴いてって言うってじゃない。聴かせたい相手がいるから音楽は輝く気がする。“誰か”に向けて，その想いが強いほど必ず心に届くと信じている。」と言われました。「自分で動かなければ何も始まらない」というアドバイスに目が覚めました。そもそも技術は，人それぞれ感じ方が違うことに気付き，何冊もの技術に関する本を読み吸収し，その過程で，音楽を自分の気持ちと共に伝えるには正しい曲の解釈を行わなければならない重要性を知りました。

これが，私が背中にエンジンを搭載するために機械の部品を収集した成果です。モーターなんてまだまだついていません。あと2年かけてモーターが完成すればいいなと考えています。2年後は教育者として，グライダー人間ではなく，グライダー兼飛行機人間を育てられるよう，謙虚さと全力投球を忘れず，日々向上していきたいです。最後になりましたが，この4年間，温かく支えて下さった先生方，共に助け合った音楽科コースのみなさんに心から御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

(小学校) 赤石岐美香，笠原翠，佐藤裕美子，別紙希  
(中学校) 猪田ひとみ，加地奈菜美，黒長史恵，村上舞  
文責：佐藤裕美子



# 学園を築立つ前に

## 素晴らしき鳴門教育大学

◆ 学校教育研究科 横澤達也

鳴門教育大学の良いところは？と聞かれると自然という言葉が出てきます。大学の周りは海に囲まれており、大きな公園もあり都会とは違ったよさがあります。大学の校内には野球場、テニスコート、多目的広場等自然と一緒に体を動かせる環境も整っています。鳴門教育大学は勉強するには素晴らしい所です。

しかし、それ以上に素晴らしいのは人です。先生方や職員さんが、本当に親身になって話を聞いてくれ、助けてくれます。鳴門教育大学には現職の方々が多く、学部生、大学院生は先生を目指している人が多く真面目で優しい人が多いです。授業態度は真面目でたくさんの意見が飛び交いました。授業の中でグループ活動が多く、学部生、院生、現職、異世代の人とも関わる機会が多く、毎日新たな発見がありました。こんな大学は全国でも珍しいのではないのでしょうか。鳴門教育大学は自分を成長させることができる大学です。

私が3年間所属していた英語コースは、たくさんのイベントがありました。新入生歓迎会から始まり、バーベキュー、キャンプ、球技大会等、今思いだしても素晴らしい思い出です。英語コースの先生は、指導熱心で多趣味な先生が多く魅力あふれる先生達です。英語コースの仲間は個性的でした。時には意見を言い合い、時には助けあい3年間共にすごしてきました。大学だけでなく、卒業した後も関わりを持ちたいと思える仲間でした。

鳴門に来て人間的に成長できました。鳴門の自然、人達が私を成長させたのではないのでしょうか。鳴門教育大学の先生方、職員さん、学生全ての人に感謝しています、ありがとうございました。

〈教科・領域教育専攻 言語系コース（英語）〉



# 学園を巣立つ前に

## 2年間を振り返って

◆ 学校教育研究科 チン 陳

イーブウ 以 樸 (台湾)

大学院を終了するにあたり、今まで指導をくださって先生方、学生の皆さん、感謝な気持ちを込めて、「ありがとうございました」と申し上げたいです。

一年目は、溢れるような授業で毎日充実した日々を過ごしました。サークルでは茶道同好会「一期一会」に参加し、日本の文化の一端を体験することができました。国際交流活動では、徳島県内の小学校や高等学校に出向き、先生として台湾の文化を児童・生徒さんたちに紹介することもでき、他国の留学生たちとも交流することができました。休日には、キリスト教会で礼拝したり、時には日本の各地を旅行したりしました。いろいろな城や神社仏閣、観光名所などに足を運び、貴重な体験をし、大いに勉強になりました。「太好玩了(タイハオワンラ)！」

二年目は本格的に修士論文を書き始めました。毎週ゼミで整理したデータを発表したり、読んだ文献を発表したりして、指導教授から様々な指導を受けました。このゼミでは、修士論文に関する指導だけではなく、研究者として一生懸命に取り組む姿勢も学ぶことができ、心を打たれる鮮烈な印象が残っています。お陰で、学校のいるときだけでなく、歩いているときも、お風呂に入っているときも、そして寝ているときも研究のことを考えるようになりました。とりわけ修士論文提出と審査発表に際しては、二年間での学びの集大成としてがんばりました。修士論文は自分の母語で書くではありません。日本語で書くのです。自分にとっては、厳しい試練でした。幸い指導教授の懇切な指導を受けながら、ゼミ室の博士課程の院生さんや同期の仲間の支えも得て、修士論文審査を無事に終えることができました。「太棒了(タイバンラ)！」

卒業後は、再び台湾小学校の教育現場に復帰します。知識を教えるだけでなく、教師の「背中」を子どもたちに見せる、いつまでも勉強し続ける教師として自ら進んで考える子どもを育てたい、そして子どもたちみんなが上手になりたいという気持ちを育てる教師になります。

台北でお出合いする日を楽しみに、「再見(ツァイチェン)！」「謝謝(シエシエ)！」

〈教科・領域教育専攻 生活・健康系コース(保健体育)〉



# 学園を巣立つ前に

## 大学院生活を振り返って

◆ 学校教育研究科 新居 浩

「研究は暗闇の海で船を漕ぐようなもの。しかし、粘り強く研究を継続していると、進むべき方向から光が差してくる。」これは、ゼミ担当の先生がおっしゃった言葉で、これからも大切にしたい言葉です。

大学院でのいちばんの思い出は、国際学会で発表を行ったことです。1年目の冬からは研究成果を国内での学会で発表することになりました。発表が終われば、ホッとしたのもつかの間、次の発表に向けて研究や要旨の執筆と、これを約2～3カ月間隔で繰り返しました。研究に対する姿勢や論文の書き方などで、現職教員の甘えを鋭く指摘されたこともありました。

1年を終える頃、先生から国際学会の発表について話がありました。正直、自分にはかけ離れたことで無謀だと思いました。英語も苦手ですし、しかも私の性格は慎重タイプであり、悪く言えば、チャレンジ心があまりありません。まさに暗闇の海の船漕ぎ状態です。しかし、ゼミを積み重ねていく中で、少しずつ光が差してきたような感じがしました。5月には英語によるポスターセッション、10月にはインドネシアで開催された国際会議にて、英語による口頭発表を行うことができました。入学当初、まさか自分がこのような経験をするとは、全く予想できませんでした。

大学院では、素晴らしい先生方や学生のみなさんに恵まれ、研究のみならず、人間として大切なことを学ばせていただきました。このような機会を与えてくださった教育委員会にお礼申し上げます。学校に戻ったら、学んだことを生かし、夢や希望に向かっていく生徒たちを支援していきたいです。

〈教科・領域教育専攻 生活・健康系コース（技術・工業・情報）〉



第34回リモートセンシングアジア国際会議にて



# 学園を巣立つ前に

## 2年間を振り返って

◆ 学校教育研究科 土山 由莉華

2012年4月、それぞれに色々な目標や思いを抱きながら大学院に入学してきました。私の場合、「教師になるためにここへ来た。この目標だけは忘れるな」と心に決めていました。この決意が壊れないよう、強くなると思う自分の表情は硬いです。自分が頑張れば教師になれるとも思っていました。しかし、2年間を振り返ってみると、多くの方々の支えがあって自分の夢は叶うことに気がつきました。大学院の先生方、実習校の教職員の方々に多くのご指導、ご協力をいただきました。実習校で出会った子どもたちにも助けられました。教師を目指す者にとって最高の環境で学ばせていただいたと思います。本当に感謝しています。

最後に、写真に写っている10人の仲間に出会えて本当によかったです。皆に出会えたことは宝くじを当てることよりも難しく、幸運なことだったと思います。P1のとき、夜遅くから朝方まで模擬授業の準備をしてしんどかったな。でも、一緒にしんどい思いをして苦しんだことが今では恋しいです。私が2年間頑張ってきたのは、仲間の存在があったからだと思います。以前よりも笑顔の写真が増えました。本当にありがとう。

学んだこと、出会った方々のことはこれから先も忘れません。ありがとうございました。

〈高度学校教育実践専攻 教員養成特別コース〉





# 退職にあたって

## 船 出

◆ 芸術・健康系教育部 芸術系コース（美術）教授 武 市 勝

わたしは昭和61年の暮れに着任したので足かけ28年ほどになります。

大学勤務は3度目ですがこんなに長くなるとは思いませんでした。あきつぽい自分にしてはよくもったものです。鳴門の水が性に合っていたというより、渦に巻かれたまま出られなかったという気がします。

28年の間には公私ともさまざまなことがあり、大学運営も紆余曲折がありました。法人化の波のあおりか、わたし自身が所属した組織もなくなるという事態も起きました。時代という潮の流れに揉まれることが多いのは、新構想大学の宿命かもしれませぬ。

時節のうつろいの中で変わらなかったのは、遅々として進まない自分の専門制作だけではないかという気がしています。

この点では、退職を機会に集中できることが楽しみでもあります。

「塾田津に船乗りせむと月待てば

潮もかなひぬ今は漕ぎ出でな」（額田王）

今は まさに船出する心境です。

皆様 お世話になりました。

## 思い出のアルバム

◆ 自然・生活系教育部 生活・健康系コース（家庭） 渡 邊 廣 二

身の回りの片付けをされていて、ふとその手が止まるのは昔の写真を見るときです。

私が鳴門に来たのは1990年でした。神戸の中突堤から高速船に乗り、淡路島の洲本港に上陸し、そこからバスで鳴門まで来ました。初めてバスで淡路南から大鳴門橋を渡ったとき、春の午後の日傾き、海と島々が夕日に照り映えて、それは美しい景色でした。よいところへ来たものだと幸福な気持ちになったことを覚えています。

秋には鳴風会の親睦の行事として小豆島へ出かけました。二十四の瞳の像の前で撮った記念写真には、社会系の先生と図書館の東海さんと並んで、私もうれしそうな笑顔で収まっています。

11月でしたが、天気がよくて、海も山も快適でした。寒霞溪の紅葉はまだこれからという時期でした。帰りにオリーブの漬物を買いました。

鳴門の生活にも慣れたころ県内の温泉巡りをしました。もみじ川温泉、神山温泉、ふいご温泉、川島温泉、月ヶ谷温泉などです。車に乗らないので、鉄道とバスで行ける範囲の温泉です。一日に数本しかないバスに乗り、日帰り、そしてよく歩きました。とりわけ神山温泉と月ヶ谷温泉は、何度も出かけました。



# 退職にあたって

## 大切にしてきた人生訓

◆ 芸術・健康系教育部 芸術系コース（美術）准教授 岩佐博久

“あなた自身の将来は、今この一瞬にある。目標がその日その日を支配する！”

教採対策ガイダンスで学生に配る「教採対策学習計画表」の冒頭に毎年書き続けてきた言葉である。「目標がその日その日を支配する」は大正・昭和の社会運動家、後藤静香の詩「第一歩」の一節にある。モラトリアム時代を生きる学生の目を覚まし、教員就職という具体的な目標を掲げ、一日一日を無駄にせず学び続けてほしいとの思いで書いてきた。学生たちのがんばりと多くの教職員の協働により教員就職率3年連続日本一を達成することができたことは、感慨深いことであった。

もう一つ、“困難に打ち勝って疲れず！”

校長として中学校に勤めていたとき、卒業生から求められた色紙に書いた言葉である。幼児教育の世界で知られる倉橋惣三先生の言葉で、激動期の大正末期に、「現代社会はいかなる人間を必要とするか。」という問いのもと発表された論文に書かれた名言である。激動の時代はまさに平成の現代社会にも通じる。教育改革のまっただ中であって何とか職務を果たすことができたのは、学生たちや教職員の温かい支えや励ましであった。

戒めとして、今後の人生においても大切にしたい人生訓である。深謝。

## 出合いに感謝して

◆ 附属特別支援学校 高等部主事 森住利夫

縁あって附属にお世話になることになったのが、昭和55年（1980年）4月でした。まだ徳島大学の附属でした。以来34年間の長きにわたり、現学校と苦楽を共にしてきたこととなります。まるで第2の我家のような存在です。本当にお世話になりました、と校舎の壁を擦りながらお礼を言わなければならないでしょう。長い間には、いろいろなことがありました。大きなことは、やはり鳴門教育大学に移管されたこと、そして、耐震化工事による教育環境の整備と充実でしょう。

附属での私の思い出は、人との出合いです。かわいいたくさんの子どもたちとの出会いはもちろんですが、すばらしい先生方との出合いが私を大

きくしてくれました。そしてそれが、34年もの長きにわたり附属にとどまった理由でもあるのです。高校の恩師である高橋啓先生と再会し、本校校長、さらに学長先生として教員としての覚悟と姿勢についてご指導を頂きました。その他、大学の特別支援教育専攻の先生方、そして本校で出会ったたくさんの方、事務室のみなさまのお陰で無事勤めを終えることができます。深く感謝申し上げます。長い間、ほんとうにお世話になりました。ありがとうございました。



## JICA 受託研修とのかかわり

キャンパスの中で留学生以外に10数名の外国の方々を見かける機会が多くなっています。鳴門教育大学では国際協力機構（JICA）から期間1～1か月半の研修を年間5件程度受託しています。1年のうち4か月程度合計人数50人程度途上国の教育関係者が鳴門教育大学で研修を受けていることとなります。研修のテーマは理数科を中心とした教授法改善や現職教員研修の強化が中心で、研修員は指導主事、教員養成校教員、リーダー教員など各国の将来の教育を担う人材です。南アフリカ、ラオス、エチオピア、大洋州諸国、アフガニスタン、中東諸国、モザンビーク、仏語圏アフリカ諸国、ケニアと様々な国の研修を引き受けています。

地域別研修「仏語圏アフリカ理数科分野における教授法/教科指導法改善」を事例として紹介します。研修員はベナン、ブルキナファソ、カメルーン、セネガルなどのフランス語圏アフリカ諸国の理数科の現職教員研修を担当されている教員指導者です。研修プログラムは、国の理数科教育や現職教員研修の課題を共有した後、日本の現職教員研修システムや指導案作成に関する講義、模擬授業計画—実施—反省会という授業研究過程に関する演習、鳴門教育大学附属小学校や徳島県の小学校視察、総合教育センター訪問などから構成され、研修結果を帰国後に実施するアクションプランとしてまとめます。

研修に来られる方々はそれぞれの国の教育界をリードする先生たちであり、日本におけるグッドプラクティスを紹介しながら、それを現地で活用できるように消化して持ち帰ってもらいたいと考えています。私たちは日本で研修するだけでなく、できる限り現地を訪問してそれぞれの国の教育事情を理解した上で適切なプログラムを組みたいと考えています。そのため日本の授業を見せるだけでなく、現地で撮影した授業と比較しながら良い

### ◆ 国際教育コース 教授 小澤大成

点・改善すべき点を考えてもらうようにしています。

研修内容として特に日本の文化を紹介しているわけではないのですが、学校訪問や日常生活を通じて、日本人の勤勉性や自分の仕事に献身的なところ、治安が良く荷物を忘れても戻ってくること、交通機関の時間が正確なことなど、こちらが普段気づかない日本の良い点を見出してくれることは、日本のことを好きになってくれているのだと、日本で研修する意義を強く感じます。

研修を実施している側として一番の喜びは自分たちが紹介したことが現地で活用され、その国の教育改善に役立つことです。2012年にカメルーンから来られた研修員は、日本で実施されている授業研究をぜひカメルーンで実施したいと帰国後のアクションプランを作成しました。2013年2月にカメルーンを訪問した際、日本で学んだ方法に基づき、パイロット校として選定した中等学校で授業研究会を実行している様子にとっても感動しました。

海外からの研修員がいるキャンパスは教育大学としてはユニークなものです。研修員を見かけたらぜひ声をかけてあげてください。国際理解の一歩となると思います。





## 留学生の個性溢れるイベント —世界の民族衣装ファッション・ショー—

◆ 学校教育研究科 綱本麻希

皆さん、鳴門教育大学には何人の留学生が在籍しているかご存知ですか。実は、47名（平成26年1月現在）の留学生が、この鳴門教育大学に通っています。このように国際色豊かな鳴門教育大学の大学祭では、毎年『世界の伝統衣装ファッション・ショー』が開催されています。主催は、教科・領域教育専攻言語系コース（国語）日本語教育分野で、今回私は、スタッフ代表として、そのファッション・ショーに携わりました。

今年度のファッション・ショーのタイトルは『世界の果てまでイッテSHOW!』で、異文化や多様性を多くの人に実感してもらうこと、鳴門教育大学に在籍する留学生を紹介することを、大きな目的としました。

ファッション・ショーでは、世界各国の音楽がBGMとして流れるなか、モデルの方々が、プロ顔負けのウォーキングを披露してくれました。モデルの方々の衣装は、きらびやかに光るインドネシアのもの、可愛らしい刺繍があしらってあるメキシコのものなど、国によって個性があり、とても興味深かったです。それから、ウォーキングするだけではなく、自分の特技を披露してくれた留学生もいました。モンゴル語で故郷への思いを歌ってくれたり、迫力満点の南国のダンスを踊っ

てくれたりして、留学生の新しい一面を見ることができました。そして、ショーの最後には、モデル全員でTHE BOOMの『風になりたい』を日本語で合唱しました。

ファッション・ショー終了後、鳴門教育大学の学生や外部の方々から、「おもしろいショーになっていたね」「いろんな国の文化を学ぶことができ、よかったよ」という言葉をいただくことができました。モデルとして、参加をしてくれた留学生からは、「とても緊張したけど、楽しかったです。来年も、モデルとしてぜひ参加したいです！」「自分の国の文化を紹介することができて嬉しいし、他の国の文化を学ぶことができ、素晴らしい機会だったよ」という感想をいただきました。ファッション・ショーの最後に歌った「風になりたい」を気に入ってくれた留学生もおり、「国に帰っても歌いたい。」と、今でも忘れずに歌ってくれています。

7月から始まったファッション・ショーの企画・運営は、とても忙しいものだったのですが、私にとって、「鳴門教育大学大学院に入学して、よかった！」と心から思える貴重な経験になりました。

〈教科・領域教育専攻 言語系コース（国語）〉



ファッション・ショースタッフ（上の列の左から3番目が筆者）



## Observing everyday life in Japan 日本の日常生活

◆ 教員研修留学生 <sup>サカーチ</sup> <sup>アダム</sup> Szakács Ádám (ハンガリー)

To be a tourist is a good thing. Everybody likes to travel abroad, visit famous places, try local food, and of course take a lot of pictures that we can show to our family members when we return home, but is it enough to know well about another culture? If it was the case, it would be easier to read a guidebook or watch a travel movie on TV.

I started to learn Japanese a few years ago because I was interested in Japanese culture. I knew the common stereotypes that usually a *gaijin* knows. For example, *sushi*, *shodo*, *samurai*, salarymen, Mount Fuji and high-tech engineering. At home, I promised myself to learn more if I ever have the chance to go to Japan because I would not be satisfied with these shallow things. Although there were few places I planned to visit, I wanted to know more about the real life of Japanese people. For instance, how they think, how they feel, how they love or act in their everyday life.

I have been to different countries in Europe but this is my first time outside the European continent. I noticed that there are a lot of differences in the Japanese and in the European culture. This is what I have read in a travel-blog written by a Hungarian couple, who travelled through 15 countries in Asia a few years ago: "As tourists, we felt that after travelling in a lot of places all over Asia, Japan was the most difficult country to get used to. We could only scratch the surface of Japanese culture". After living here for more than one year, I can now understand their feelings better because I still discover new things every day. I found out that the more I learn about Japanese culture, the more I realize my own mistakes. Japanese people always try to avoid troublesome situations to the others because they are so patient and kind.. So, foreigners should be open-minded and careful about their manners so that they can gradually learn how to be accepted by the Japanese society. I am grateful to my friends, my teachers, and all the Japanese people who helped me understand the Japanese life better. Thank you for your kindness.

海外旅行は、良いものです。有名な場所を訪問し、名物料理を食べて、家族に見せるための記念写真を撮る。そのような外国の旅がきれいな人はいないでしょう。しかし、他国の文化を知るために、それだけで十分だと言えるでしょうか。もしそうであったなら、ガイドブックを読んだり、テレビで旅行番組を見たりする方が簡単ではないでしょうか。



私は数年前から日本の文化に興味を持ち、日本語を学び始めました。寿司、書道、侍、サラリーマン、富士山、日本の高い技術など、普通の「GAIJIN」が知っている典型的な日本についての知識はありました。しかし、それだけの知識では満足できず、もし日本に行く機会ができたなら日本についてもっと多くのことを学ぼうと心に決めました。もちろん観光したい場所はいくつかありましたが、それよりも日本人の考え方や物事への接し方といった、日本人の日常生活を知りたいと思いました。

これまでヨーロッパの様々な国を訪れた私ですが、今までヨーロッパ大陸を出たことはありませんでした。今回の訪日により、日本とヨーロッパとの間には大きな文化の違いがあることに気づかされました。私は、数年前にアジア15カ国を旅したハンガリー人夫婦のブログを読んだことがあります。そこには、「アジア各地を旅して、慣れるのに一番難しかった国は日本でした。私達は日本文化のほんの表面を理解することしかできませんでした。」と書かれていました。日本に来て1年が過ぎた今、やっとその意味がよく理解できます。いまだに日々新しい発見があり、日本文化を知れば知るほど日本に対して誤解している部分があることに気づかされるのです。

日本の方々はとても忍耐強く、また親切なので、他人に迷惑をかけないようにいつも気を遣います。彼らの風習を受入れて接すれば、日本人社会に溶け込むことができるでしょう。日本での生活について教えてくれた友人達、先生方、そして全ての日本の方、どうもありがとうございます。皆さまのご親切に感謝しています。



## 交流学生による大学紹介 –南アフリカ共和国 プレトリア大学–

◆ 特別聴講学生 シュミ トーコゾーレ レベッカ SHUMI THOKOZILE REBECCA (南ア)

### Life on campus

University of Pretoria is a very big university with a number of faculties like Theology, Economic and management sciences, Engineering, built environment and IT, Health sciences, Humanities, Law, Natural and agricultural sciences, Veterinary science and the faculty of Education. Our faculty of Education has a special campus located in Groenkloof where all education programmes are offered. Modules are offered in both English and Afrikaans. The university accommodates students (and lecturers) from all over South Africa as well as around the world so there is so much diversity on campuses. The students are from all walks of life and so there is also a lot of cultural diversity. The university has residences (like dormitories in Japan) and each of these residences promotes a certain culture and participation in a number of activities organised by the house committees as well as the university. All first year students residing in these residences have to wear res uniform for about 6 months and participate in first year concert called 'lenkmelodink'; this is compulsory for them. The senior students have a choice to participate or not.

There are major events for all students like international day, Reach out and give and others. These events allow the students to get to explore the cultures and traditions of other students other than themselves. There are many shops and restaurants around the University for the Convenience of the students. There are very resourceful libraries which allow for effective research and study. In addition to this there are support systems put in place for the students like Faculty day houses for students who don't stay in res, health support, student academic support, student gym, Tuks FM radio station and many more.

Campus life at university of Pretoria is wonderful and enjoyable. It also serves as a platform for healing of the wounds of the apartheid era (racism) in South Africa because today black students are able to attend classes with white students and even become friends and take on leadership roles together. At university of Pretoria we learn academic excellence and grow together to be South African citizens who are open minded, Thanks to student life!

プレトリア大学は数多くの学部からなる大きな大学です。教育学部があるキャンパスはフルンクルーフという町に位置していて、そこで全ての教育プログラムを受けることができます。授業はアフリカンス語と英語の両方で行われています。大学には南アフリカ国内だけではなく、世界中からきた学生や教員が在籍しているので、キャンパス内は多様性に満ちています。学生もあらゆる環境の中から来ているのでさまざまな文化があります。



大学には日本にもあるような学生宿舎があり、各棟で大学が主催するような、さまざまなイベントを企画しています。新入生は、宿舎の中では決められたユニフォームを約半年間着用しなければなりません。そして、彼らにとって初めてとなる“lenkmelodink”というコンサートに強制的に参加させられます。先輩の参加は自由です。

また大学には、International Day や Reach out and give などの大きなイベントがあります。これらのイベントは、他の学生から様々な文化や伝統を知る機会を与えてくれます。大学周辺にはたくさんのお店、レストランがあり学生の便宜を図っています。また、研究や勉強に役立つ資料の豊富な図書館もあります。さらに、宿舎に住んでいない学生のための“Faculty Day Houses”,ヘルスサポート、学習支援、ジム、大学のFMラジオステーションなどが整っています。

プレトリア大学の生活は素晴らしく、また楽しいものです。大学では黒人と白人の学生が平等に講義を受け、共にリーダーの役割を担うことができ、アパルトヘイト時代の傷を癒してくれる場所となっています。優れた教育を受け、偏見を持たない南アフリカ市民として共に成長していくことのできる大学です。学生生活に感謝しています。

## 幼稚園 平成 25 年度 幼児教育研究会

◆ 附属幼稚園 教頭 佐々木 晃

平成 25 年 11 月 16 日（土）に鳴門教育大学と附属幼稚園の共催で平成 25 年度幼児教育研究会を開催しました。今年度は文部科学省より指定を受けた研究開発学校第 3 年次の最終年度でもあります。田中雄三学長より御挨拶いただき、「幼小接続の教育課程開発－遊誘財がひきだす科学的思考 III－」と題して保育公開・研究発表・分科会・講演会を行い、538 名の参加者による熱心な討議が進められました。科学的思考を促す幼小接続教育課程や指導計画、評価要素表を提案するとともに、質の高い教育実践のための「遊誘財データベース事例集 科学的思考」を構築するなど研究成果を発表しました。



## 小学校 附小の使命とは

◆ 附属小学校 教諭 林 隆 宏

去る 2 月 8 日、本校では第 60 回小学校教育研究会を開催しました。県内外から 500 余名の方が参会して下さいました。当日は、徳島では珍しい大雪という悪天候に見舞われましたが、どの授業とも熱気に包まれた提案性のある授業になりました。

ところで、本校には 4 つの使命たるものがあります。1 つめは義務教育学校であること。2 つめは、実習校であること。3 つめは、研究校であること。そして 4 つめは、奉仕学校であることです。

毎年開催している小学校教育研究会の開催意義として、2 つの意味があると考えます。その一つは、研究校であることです。今年度は「学習内容の本質に迫る学びの創造」という主題をたて、研究を進めてきました。今も日々、授業実践を通して主題解明に努めています。2 つめの意味としては、奉仕学校であることです。附属学校の存在意義で

もある地域教育の拠点、モデル校として公立小学校の教育に寄与することです。色合いとしては、どうしても前者の方が強くなるのは当然のことですが、附属の一員として後者にもしっかりと目を向け、地域に頼られる学校でありたいと考えます。





中学校

## あいさつにプラスαのメッセージ 生徒会

◆ 附属中学校 教諭 河野昌紀

昨年12月に後期の生徒会本部役員が任命され、活動を開始しました。新メンバーはそれぞれに生徒会として取り組みたいアイデアがあり、やる気に満ちています。その中で、最初に始めたのは、これまでの生徒会も行ってきたあいさつ運動でした。毎朝、正門に並び、登校してきた生徒たちに笑顔で、大きな声であいさつをしています。充実した生活・望ましい人間関係は気持ちのよいあいさつから生まれると考え、受け継いだのです。

また、あいさつだけでなく、プラスαのメッセージを呼びかけています。内容は「いじめ撲滅」や「交通安全」、「エコ（節電・節水）」などさまざま、自作したパネルを持って、あいさつすることで、こうした内容を意識してもらおうという工夫です。また、こうすることで、あいさつ運動により親し

みをもってもらえるようにもなりました。

今後も、このようなよい伝統を受け継ぎつつ、さらに自分たちの学校をよりすばらしくしていくことを目指して、生徒会は日々、活動していきます。



特別支援学校

## 高等部修学旅行

◆ 附属特別支援学校 平岡保人

台風接近でどうなるかと思った今年の修学旅行、それでも修学旅行団を迎えてくれた東京の空は、台風一過の青空でした。午前中から午後に切り替えて徳島阿波おどり空港を飛び立った飛行機は、台風の吹き返しで揺れに揺れました。機体が大きく上下するたびに客室中から大きな声が起こりました（他校の修学旅行団も同乗してました）が、無事到着してみれば、それも良い？思い出となりました。

2日目は、終日ディズニーランドを満喫しました。当地は30周年のメモリアルイヤーということで、いつものパレードに加えて、30年に及ぶディズニーのキャラクターが登場するメモリアルパレードも楽しむことができました。夜まで頑張って電飾が輝くエレクトリカルパレードまで見た生徒もいれば、ディズニーランドを巡るモノレールを堪能した生徒もいて、皆それぞれ友だちや先生

と相談しながらグループごとに楽しみました。

3日目は、開業1年あまりのスカイツリーに登り、東京の街を一望。水上バスで隅田川を下って築地市場で昼食、お台場フジテレビの「はちたま」を見学して羽田空港へと、最後まで意欲的に見て回りました。

「みんなで東京へ行った」という自信と思い出は、生徒たちの一生の宝物になったことでしょう。





## 学生会長として

◆ 学生会長 千葉晃平

私の学生会会長としての仕事も大詰めを迎えています。今年度、学生会は「学生のみなさんのため、大学のために活動しよう」という合言葉のもと、活動してきました。そのためにはしっかりした組織にならないといけない。その決意のもと、私は学生会長としてやっていこうと意気込んでいましたが、至らないところが多く、失敗も多くなりました。しかし、同時に、できたことも多くあります。そこで、今年度の学生会の活動について少し紹介していきたいと思います。



1つ目は、写真にもあるように、昨年度に引き続いて徳島ヴォルティスを応援する『スタジアム学園祭』に参加したことです。今年度、個人的には大学生リーダーを務めさせていただき、参加校も増え、学生会執行部以外の鳴教生にも参加してもらい、輪が広がりました。また、私たちが応援したホーム最終戦で勝って勢いに乗った徳島ヴォルティスがJ1に昇格したことは私たちだけではなく県民全体に嬉しいニュースとなりました。

2つ目は、かき氷やココアといった恒例行事をパワーアップさせたことです。かき氷ではシロップの種類を増やしました。また、ココアではお菓子の種類を増やし、IHコンロと厚底鍋を使いアツアツのココアを提供できるようにしました。その成果として今年度は例年以上にたくさんの方が来てくださいました。衛生面には気を遣いつつ、来年度以降もさらに喜んでいただけるものにしていきたいと考えています。

3つ目は、学生会執行部の集まりを増やしたことです。私たちは、学部生のみなさんからいただいた学生会費を管理している立場です。そのことについての責任感は常に感じておかなければなりません。有効に使うために話し合いを繰り返しました。このことで、執行部がしっかりとした組織になりつつあります。

最後に、私が学生会会長としてやるべき大きなことは3月の卒業記念パーティーのみとなりました。お世話になった先輩方を気持ちよく送り出せるよう、精いっぱい準備していきたいと思います。1年間ありがとうございました。



# 1年を振り返って

◆ 院生会会長 鈴木 藍

本学に入学し、目まぐるしく生活を過ごす中、あっという間に1年が経とうとしております。年が明け、今年度も残りわずかとなりましたが、先輩方は修了の日々が近づいている時期でしょう。

院生会での活動を振り返ってみると、前期のソフトボール大会と国際交流パーティーに引き続き、後期の12月中旬にソフトバレーボール大会を開催いたしました。他イベントと同様に大変盛り上がりを見せ、大きな怪我もなく無事終了いたしました。例年よりも遅めの開催期



日となり、院生会役員一同、寒さ対策や安全管理などにより一層力を入れて臨みました。院生の多くの方々に参加していただき、終了時には参加者皆さんのほつらつとした笑顔をとくさん見ることができました。また、運営側だった院生会役員もソフトバレーボール大会を楽しむことができ、運営側も参加し、楽しむことが企画をより良いものにするのだと感じました。忙しい時間の中、企画・運営をしてくださった院生会役員の皆様と、そして、ご参加いただいた各コースの院生皆様に感謝いたします。

院生会長として、院生会という組織の統括や行事の企画・運営、そして院生と学校との連携を図る事は、当初私には荷が重く不安でしかなかったものの、行事が一つずつ終わるにつれ仕事内容も把握でき、来年度での院生会をより良くするためにはどうしていくべきかと考える余裕もできました。振り返ってみると不安だった会長という役職も大変貴重な経験となり、実りある1年だったように思います。

来年度も院生会は皆さまのお役に立てるよう、より一層気を引き締めてまいりたいと思います。新年度を迎えましても、変わらぬお付き合いのほど、よろしく願い申し上げます。修了生の皆様におかれましては、新天地での更なる飛躍を、心よりお祈り申し上げます。



# 課外活動 サークル紹介

## 硬式野球部 活動紹介

◆ 硬式野球部 小林 晴 太

わたしたち硬式野球部は、部員9名、マネージャー6名で、水・金の放課後と土の午前の週3日練習を行っています。現在は、4月から始まる、春季四国地区大学野球リーグ戦に向けて、個人技能の向上を中心に、チーム力の底上げに励んでおります。

選手の人数が少なく、思うように練習ができないこともあります。選手は昨年度の結果よりも良い成績を残すために、精一杯頑張っております。

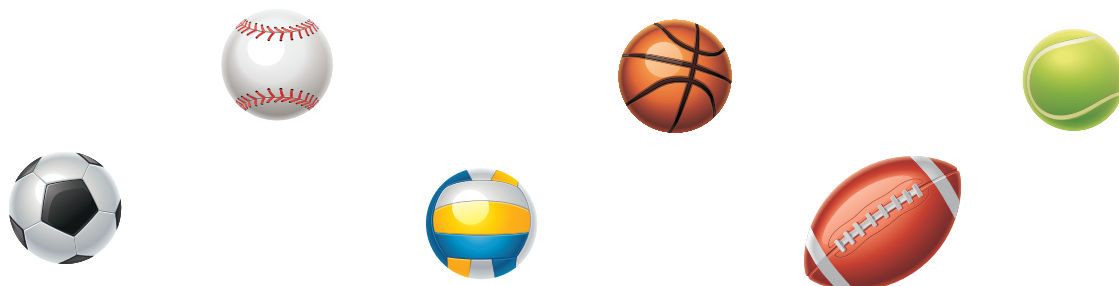
4月19日、20日は本大学野球グラウンドにて香川大学と対戦します。応援よろしくお願いたします。



## 鳴門教育大学陸上競技部です。

◆ 陸上競技部 徳 寺 日 和

わたしたち陸上競技部は毎週月・水・土曜日に活動しています。部員は選手が23人、マネージャーが5人います。みんな仲良しで、練習ではいつも笑いが絶えません。陸上初心者の方でも大歓迎です！また、現在マネージャーが不足しているので募集しています。今はシーズンオフ中ですが、大会が近くなると、それぞれの目標に向かって、励ましあいながら練習に励んでいます。



# 課外活動 サークル紹介

## BBS

私たちはBBSサークルです。主にボランティアをするサークルです。BBSは他大学にもたくさん存在する大きな組織です。鳴門教育大学に近い徳島文理大学などと連携をとりながら活動します。二月には鳴門教育大学の体育館で文理大学のメンバーと共にスポーツ交流会をします。スポーツ交流会は社会参加活動を意味します。保護観察所にいる、日頃交友関係や人間関係が限定されがちな少年とスポーツを通して触れ合います。このような少年にとって私たちBBS会員との出会いは非常に印象深く有益なものになると思われます。また教員を志望している私たちにとってもこのような少年たちと触れ合うことは有益なものになると思います。バトミントンや卓球などをし終わった後、文理の学生や少年たち全員でお弁当を食べてとても楽しい交流会となりました。活動内容はスポーツ交流会や近くの小学校や特別支援学校などの行

### ◆ BBS部長 森下翔太

事のお手伝いやBBSの研修などです。このような活動を1, 2か月に1回のペースで行います。1, 2か月に1回の活動なので野球部やサッカー部やダンス部などほかの部活と兼部している人が大半です。がっつきするというよりたまにボランティアを経験したいという方にお勧めのサークルです。



5月18日新会員研修会1泊2日の宿泊先にて

## 気軽にできるボランティア

こんにちは！私たちフレンズは誰でも気軽に取り組めるボランティアサークルです。部員のほとんどが兼部しており、毎回の活動はあらかじめメール連絡でボランティアの日時や内容をお知らせし、出席できる人で活動しますので、自分のペースで取り組みます。

私たちはおもに障害者に対するボランティアを行っており、活動は大きく分けて2つあります。1つめは重症心身障害者に対して病院に訪問し、レクレーションを行ったり、イベントのお手伝いをします。もう一つは車いすサッカーの応援や練習のサポートです。障害者に対するボランティアと聞いて、「少し難しいな」と思われるかもしれませんが、経験がなくても、自分が楽しもうとする

### ◆ ボランティア団体 friends 山口 暁子

気持ちさえあればどなたでも大丈夫です。また、病院の方や障害者のご家族とお話する機会もあり、自身の学びや豊かな経験にもつながります。興味のある方でしたらどなたでも大歓迎です！！科や学年を問わず入部をお待ちしています。



# 情報基盤センターよりお知らせ

◆ 情報基盤センター所長 伊藤 陽 介

情報基盤センターでは、情報システムと情報教育に関する教育研究、及び、情報セキュリティの確保と教育等に加え、学内情報基盤の管理運用と利用支援に関わる講習会や相談等の様々な業務を行っています。平成25年度は、よりわかりやすくタイムリーに情報を提供するため本センターのWebページ (<http://www.naruto-u.ac.jp/center/it/>) を一新するとともに、利用端末室内と利用支援室前に学生情報端末を設置しました。平成26年2月から現行の学術情報システムを情報基盤コンピュータシステム(以下、新システム)に置き換え、より充実した教育研究活動を支援します。ここでは、新システムの主な特徴についてお知らせします。

## 1 サーバの統合

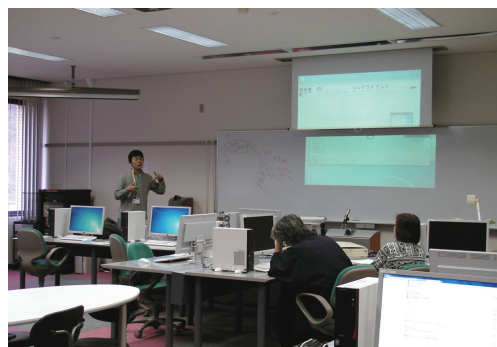
新システムで導入する大容量記憶装置に総合認証システム、電子メールシステム、図書館システム等の主要なシステムのサーバを統合し「プライベートクラウド」として活用します。この統合によって高い可用性を確保するとともに、省エネルギー化を計ります。平成26年度以降、教育研究に関わる各種システムを順次「プライベートクラウド」に統合していく計画です。

## 2 端末機のシン・クライアント化

端末機のシステム・イメージをサーバ側で管理できるシン・クライアント化を全面的に取り入れます。これによりシステム・イメージの更新内容が即座に反映され、ソフトウェアのバージョンアップや追加・削除等が容易に行えるようになります。教育用端末室とマルチメディア教育実習室には、映像編集等に向くネットワークブート型のシン・クライアントを導入します。各特殊端末室(人文棟、自然棟、芸術棟、健康棟)と附属図書館には、画面転送型のシン・クライアントを導入します。附属学校園には、ノートパソコンの画面転送型のシン・クライアントを導入します。シン・クライアントでは、設定によりUSBポートを介して外部記憶装置等を利用できます。

## 3 プリンタとスキャナ

教育用端末室、マルチメディア教育実習室、人文棟特殊端末室、自然棟特殊端末室、附属図書館にオンラインで印刷できるプリンタを設置します。これまで、USBメモリを使い現金を投入して印刷していた不便さが大きく解消されます。年度毎に設定する制限枚数までは課金を必要とせず印刷できます。教育研究用に限り有償で印刷制限枚数を増加させることができます。また、A3対応のスキャナは、教育用端末室、マルチメディア教育実習室、人文棟特殊端末室、自然棟特殊端末室に設置し、オンラインで利用できます。



# 情報基盤センターよりお知らせ

## 4 利用できるソフトウェア

端末機で利用できるソフトウェアは、現行の学術情報システムと同じ、または、新しいバージョンのものであります。教育用端末室とマルチメディア教育実習室には、学校等でよく利用されている「授業支援システム」を導入します。さらに、小学校教育で利用率の高いソフトウェア群を新たに導入することで学校と同様な情報環境を提供し、ICTに強い教員の養成を支援します。文書作成、表計算、統計解析、セキュリティ、地理情報処理、データ分析・可視化、楽譜作成、マルチメディア処理等の様々な有償ソフトウェアを利用できます。契約形態によっては、利用端末室のみならず、研究室や個人所有のパソコンに導入できるものもあります。詳細については利用支援室までお問い合わせください。

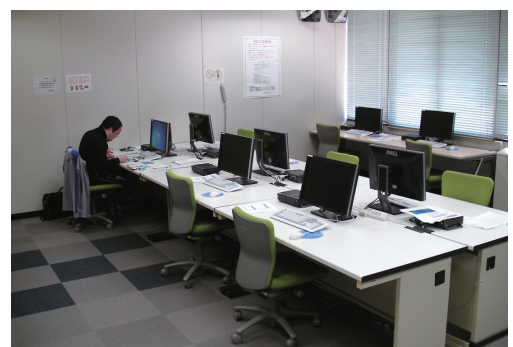
## 5 リモートアクセス機能

学内の有線または無線ネットワークに接続した情報端末機(研究室や個人所有のパソコン、スマートフォン等)から、リモートアクセス機能を使って情報基盤コンピュータシステムの資源を利用できます。情報端末機の表示画面の一部に「情報基盤センターの管理する Windows 端末機」の画面を転送することで、ほぼ同様なソフトウェア環境を利用でき、相互にファイル等を移動したりコピーしたりできます。なお、学外からのリモートアクセス機能の利用については、平成26年度中にサービスを開始する予定です。

## 6 学術認証フェデレーション

学術認証フェデレーション「学認」は、国立情報学研究所が提供する連合体のことで大学等教育研究機関や様々なリソースを提供する各種団体から構成されています。「学認」で採用している Shibboleth 認証サーバを使って相互に認証連携を実現できるようになり、電子ジャーナルの閲覧やキャンパス無線 LAN の相互利用 (eduroam) 等のサービスを本学のユーザ ID による認証で利用可能になります。「学認」によって利用できるようになった個々のサービスとその内容については、本センターの Web ページでお知らせします。

スマートフォンやタブレット PC 等の普及により情報環境の利用手段が多様化していることから「学生同士で教えあい、学びあうこと」を目的とした学生ボランティアによる「情報基盤センター学生 ICT サポート」の活動支援を平成25年度より開始しました。本センターでは、活動場所の確保に加え様々なレベルのガイドブックや技術資料、検証用具等の整備等を行い「学生 ICT サポート」を支援しています。「学生 ICT サポート」を利用させていただくことはもちろん、ボランティアとしての参加もお待ちしております。最後になりましたが、利用支援に関わる要望や導入希望のソフトウェア、周辺機器等がありましたら、どうぞお気軽に利用支援室 (support@naruto-u.ac.jp) までお知らせください。



平成 26 年 4 月

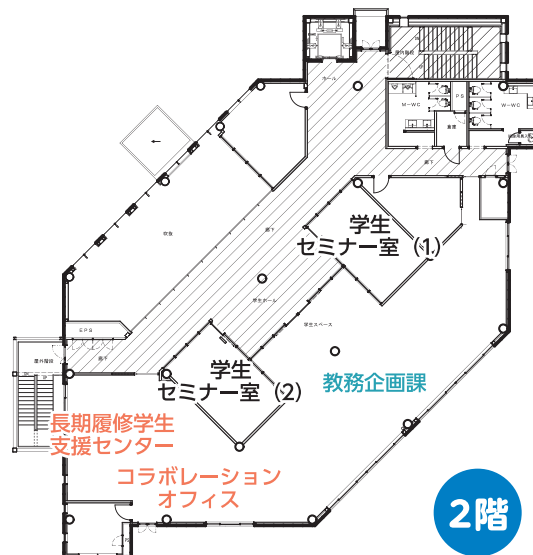
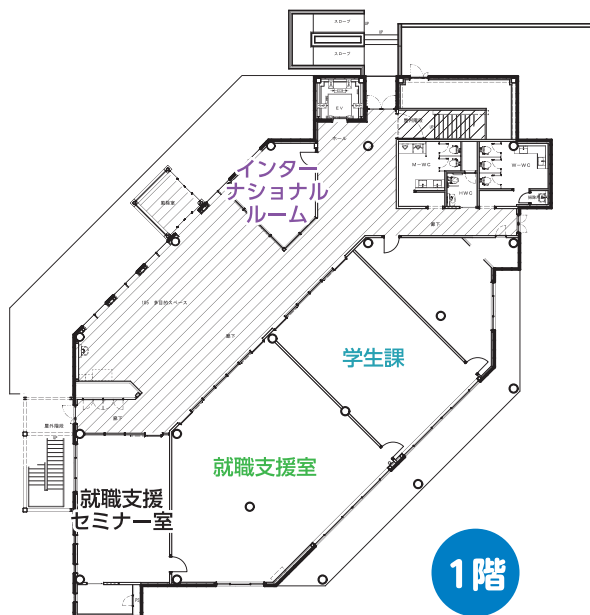
## 総合学生支援棟 OPEN!

平成26年4月, 学生生活の新しい拠点が完成します。総合学生支援棟（愛称: コアステーション）は, 講義棟南側に位置し, 教育支援・学生生活支援の窓口を集約した機能的な建物です。



### 施設概要

- |                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>【1階】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生課</li> <li>・就職支援室</li> <li>・就職支援セミナー室</li> <li>・インターナショナルルーム</li> <li>・多目的スペース</li> </ul> | <p><b>【2階】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務企画課（旧：教務課）</li> <li>・コラボレーションオフィス</li> <li>・長期履修学生支援センター</li> <li>・学生セミナー室（2室）</li> </ul> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



**オープンに先立ち、オープニングセレモニーを開催します。**

日時：平成 26 年 3 月 25 日（火） 10：30～12：00

場所：総合学生支援棟 玄関前

教職員及び学生の皆様も自由にご参加いただけます。



# 健康手帳

## 子どもの健康は母親の健康から

◆ 心身健康センター所長 廣瀬政雄



マスメディアに取り上げられる健康情報は大人向けのものがほとんどで、子どもに関するものはNHKラジオの番組を除いてほとんどありません。対象者の多さとかテーマの選び易さを考えれば、大人向けのものが番組として成立しやすいことはその通りかもしれません。そこで、今回は、子どもの健康における出生前期の意味について考えてみたいと思います。

一昨年から昨年にかけて風疹の流行があり、平成14年1月14日の報道では31人の先天性風疹症候群の子どもが生まれたそうです。先天性風疹症候群は受精から妊娠3-4ヶ月後までの期間に母体が風疹に感染して、胎児に移行したウイルスによって異常がもたらされるものです。

一般的に、妊娠期間は最終月経の初日から分娩までをいい、40週間とされています。妊娠期間は通常4つの期間に分類されます。生殖細胞から配偶子（接合子）の時期を細胞期、受精から妊娠3-4ヶ月を胎芽期、受精後8週から誕生までを胎児期、22週以後-生後1週未満を周生期（周産期ともいう）などですが、各時期に応じた危険性があります。

細胞期は生殖細胞が減数分裂により精子や卵子などの配偶子を形成する時期で、遺伝子の異常は遺伝病として子孫の疾病の原因となります。血友病など多くの疾患がこれにはいります。また、減数分裂時の異常は染色体構成や染色体数の異常の原因となり、ダウン症などの疾患を起こします。胎芽期は器官の形成が進む時期で母体の薬剤摂取、感染症、あるいは化学物質や放射線に対する曝露が胎芽に異常をもたらしやすい時期です。睡眠薬のサリドマイドと多発奇形の発生がよく知られて

いますが、砒素やPCBあるいはダイオキシンなどの化学物質も原因となりえます。トキソプラズマ（原虫）のほか、風疹ウイルス、サイトメガロウイルス、ヘルペスウイルス、パルボウイルスB19など多くのウイルス感染が原因となり、中枢神経系の異常、造血組織の異常、あるいは肝臓や脾臓の腫大などを起こします。胎児期は比較的安定した時期ですが、梅毒などの原虫感染、血液型不適合あるいは胎盤機能異常により子どもに異常が発生します。周生期は子宮外生活が可能になる時期です。

中でも、胎芽期は胎児の器官形成が進む非常に重要な時期であるにもかかわらず、妊娠していることを知らずに生活している場合もあるため、特に注意が必要な時期といえます。妊娠する可能性のある女性の注意点として、接種可能なワクチンはすませておく、薬や化学物質を摂取しない、感染症の流行時には人込みを避け手洗い習慣を守るなどの注意が大切です。たばことアルコールも影響があるので控えてください。

この他、最近注目されている粉塵性大気汚染の原因であるPM2.5は肺がんや喘息の悪化の原因となることが知られていますが、PM0.1を含むディーゼル排ガスを妊娠中のマウスに2週間吸入させたところ、生まれた子マウスの脳血管に近い細胞内に超微粒子が蓄積しており、細胞の崩壊や隣接する細い血管が閉塞するなどの異常が起きることが報告されました。たばこでも同様の危険性があるかもしれません。

母性の健康は子どもの健康に直結しますし、特に妊娠の可能性のある女性はあらゆる面で健康的な生活をしてもらいたいものです。

## 防災スタンプラリー & 鳴門西小学校児童の避難訓練

### ◆ 「教育実践フィールド研究」現代教育課題総合コース

鳴門教育大学防災訓練の日に、本学学生対象の防災スタンプラリーを行いました。6ブースを用意して、スタンプをもらおうと参加できる「なるさい!!!!」では、防災×出合いをコンセプトにして、防災カードゲーム「シャッフル」で盛り上がり、山菜おこわの非常食試食でお腹も満たされました。

#### 「なるさい!!!!」チーム

梅谷遥香・大久保雅人・徐佳・橋口善成

防災カードゲーム「シャッフル」



水消火器体験



レスキューボード体験



同日、鳴門西小学校の児童（4～6年生計159名）が本学を訪れ、地震や津波に関する防災〇×クイズ、防災ヘリコプターの見学、津波の緊急放送を聞いて人文棟6階への避難訓練、避難リュックの勉強を行いました。児童たちそれぞれが学んだことや感じたこと、経験が、家族や地域住民に伝えられ、一人ひとりがこれからも防災について考え続けることが望まれます。

避難リュックの勉強

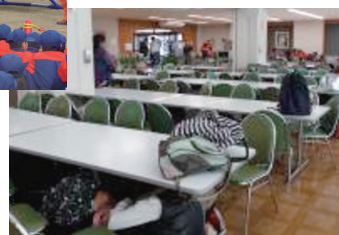
#### 「ハルチル」チーム

北野瑤子・水関宏誓・成松千穂・山下脩平

防災ヘリ見学



防災〇×クイズ



緊急放送！





## 防災訓練を行いました！

(施設課)

平成25年11月26日(火)午後には防災訓練を行いました。平成25年7月に人文棟を津波避難ビルとして使用する協定を鳴門市と締結したことにより、今年度は鳴門西地区住民だけでなく、鳴門中学校生徒160名及び鳴門西小学校児童160名も防災訓練に参加することとなりました。

まず、陸上競技場において徳島県消防防災ヘリコプター「うずしお」による救出・救助の展示訓練を見学し、その後、緊急地震速報を全館配信し、大学職員を中心に構成された自衛消防隊による初動対応の訓練を行いました。

大学では、構内にAEDを設置していますが、防災訓練では鳴門市消防本部によるAEDの指導を直接受けることができます。また、起震車で関東大震災や阪神・淡路大震災等の大地震と同じレベルの揺れを体感し、その場で自分が取るべき行動や実際にできる行動を確認することも訓練として有効です。

防災訓練は、皆さんの授業時間中に実施していますので参加が難しい場合があるかもしれませんが、体験訓練は防災訓練当日に随時参加可能ですので、時間の空いたときにぜひ体験訓練に参加してください。



大津波警報の発令を聞いて人文棟に避難する鳴門西小学校児童

# 図書館だより

## ①卒業・修了後の図書館の利用について

卒業・修了後も図書館を利用することができます。利用方法としては、以下の2つの方法があります。

### ◎来館しての利用

図書の貸出、館内資料の複写等ができます。

図書の貸出をご希望の場合は、身分証（運転免許証、保険証等）を持参してください。「卒業生・修了生利用証」を発行いたします。

### ◎非来館での利用

利用者から申し込みのあった図書について郵送等により貸出を行っています。なお、送料は申込者負担となります。

貸出手続きの詳細については、図書館ウェブページ (<http://www.naruto-u.ac.jp/library/>) の「一般利用の方へ」→「非来館貸出」をご覧ください。どうか、電話でお問い合わせください。

(TEL 088 - 687 - 6156)

\* 来館貸出、非来館貸出ともに図書の貸出冊数・貸出期間は以下のようになっています。

貸出冊数	貸出期間
5冊以内	1か月以内

※卒業・修了生へは雑誌の貸出はできません。

## ②電子黒板とデジタル教科書の利用について

近年、各学校で導入が進んでいる電子黒板とデジタル教科書を図書館で使うことができます。どうぞご利用ください。

※利用時には、セミナー室3の利用申込が必要です。

※利用は学内者に限らせていただきます。



セミナー室3

## ③マイライブラリの利用について

「マイライブラリ」は、インターネット上で、図書館からの連絡事項や利用者自身の貸出状況の確認、貸出期間の延長、学外機関からの文献取寄せの申し込み等ができるサービスです。大変便利なサービスですので、ぜひご利用ください。

なお、「マイライブラリ」が利用できるのは学内者に限定されています。

### ◎アクセス方法

図書館ウェブページの「マイライブラリ」をクリックするとログイン画面が表示されますので、「ユーザーID」、「パスワード」を入力してください。

※ユーザーID、パスワード

学生・情報基盤センターのパソコンにログインする際のユーザーID、パスワード。

教職員・メールを利用する際のユーザーID、パスワード。

## ④各種ガイダンスについて

図書館では、学内の方を対象に下記の期間に文献検索や、雑誌論文などの収集を手助けする各種ガイダンスを実施しています。

詳しい日時が決まりましたら、図書館掲示板、図書館ウェブページなどでお知らせしますので、ぜひご参加ください。

4月／新入生のための図書館オリエンテーション  
春～秋頃／文献検索講習会

(大学院学生、学部学生、教員対象)

## ⑤レファレンスサービスについて

図書館では、図書館利用や資料・事柄等に関するいろいろな質問を受け付けています。わからないことがありましたら、カウンター職員にご相談ください。即答が難しいものは、後日、回答いたします。



# 学生対談

教員就職率が全国上位を誇る本学ですが、  
こんな分野でも活躍しています！



今回は、学校教育学部中学校教員養成課程芸術系Ⅱ（美術科）教育専攻を卒業し、フリーの漫画家兼イラストレーターとして活躍中の津々巳あやさんと、このたび、集英社ジャンプSQ第6回クラウン新人漫画賞佳作を受賞し、めでたく漫画家としての第一歩を歩み始めた南郷芙美さんに対談してもらいました。

— 教員の道ではなく、漫画家の道を選ばれたお二人ですが、漫画を描き始めたきっかけなどを教えてくださいませんか？

南郷 小学生の頃、最初は画家になりたいと画家にあこがれていました。漫画を読み始めて好きになり、「漫画家になろう」と思うようになりました。大学2年生の春休みから、本格的に描いて投稿し始めました。

津々巳 幼稚園の頃、父が買ってくる4コマ雑誌をみて、落書き帳にコマ割りして漫画を書いていました。大学1年生の時に「漫画家になろう」と決意し投稿を始めました。

— 子どもの頃から描き続けられ「継続は力なり」を地でいくお二人ですが、作家として、うれしかったのはどんな時ですか？

津々巳 続刊が決定したときですね。自分の読者が増えたと実感できるから。また、読者がツイッターやブログで「おもしろいから読んで」と他の人に作品を紹介してくれているのを見たときです。

南郷 受賞後もあまり実感が湧かなかったのですが、作品が掲載されて、友人など多くの人から感想をいただいたことです。今までになかったことなので・・・。

— 読者の反応は、一番の宝ですね。それでは、逆に制作の上で大変なこと（つらい時）は、どんな時ですか？

南郷 現在、次の読み切り用作品を描いていますが、ネームが出てこないときですね。

津々巳 連載終了の連絡がきた時です。単行本の1巻目が売れないとアンケートが良くても、出版社は連載打ち切りの判断をします。なので、第一巻の表紙にはかなり力を入れてます。表紙から伝わる「イメージ」も内容の面白さにかかなり影響します。タイトル・表紙・内容のどこかが飛び抜けることが大事だと思います。ただ、飛び抜けることが、ものすごく難しいのも現実です。

— 作家ならではの苦労が色々ありそうですが、その際のリフレッシュ（気分転換）の方法など教えてくださいませんか？

南郷 自然に囲まれた場所に行きたくなります。制作する際、主人公の心境をうまく表現するのに悩んだときに、多目的広場（大学構内）のブランコで考えたりしました。

津々巳 仕事から離れて、料理や掃除など日常生活を送ることが、気分転換になります。

— 何か特別なことをするわけではなく、制作作業から離れることが、気分転換になるのですね。これからの目標をお聞きしてもよろしいですか？

南郷 （連載作品を持てるように）突き進むのみです。

津々巳 1つ地盤となる作品を作りたいです。

— 在学中の経験や本学で学んだことで、役立ったことがあれば教えてくださいませんか？

南郷 教員養成大学ということで、いろんな学科・専攻の人が集まっており、また、学生のコミュニケーション能力が高いおかげで、多くの人柄や人間性に触れることにできたことが、今後に役立つと思います。

津々巳 （教育実習などで）教員の現場を見れたことです。普通は、（教員側から現場を）見ることができないですから。また、大学で過ごした4年間の時間そのものが、貴重な時間だったと思います。今の作品に大いに役立っています。

— 最後にありますが、在学生へメッセージをお願いします。

津々巳 固定概念に縛られないで、やりたいことにチャレンジしてほしい。周囲の思い込み（反対意見）は、自分自身の努力次第で切り開くことができると考えています。もし、教員以外の道が見つかったのであれば、その道を究めてください。

— 津々巳さん、南郷さんありがとうございました。

今後のお二人の活躍を祈念いたします。本誌読者の方々も応援よろしく願いいたします。

進行役： 武市勝 教授 【芸術系コース（美術）・学園だより編集委員会委員】



卒業生：津々巳あやさん  
在学中に少女漫画デビュー。  
現在、本学を舞台のモデルとして、月刊コミックアライブにて「女子大生の日常」を連載中。詳しくは、<http://tutumiaya.com/> をご覧ください！




南郷芙美さん  
学校教育学部学校教員養成課程小学校教育専修・図画工作科教育コース4年  
集英社ジャンプSQ第6回クラウン新人漫画賞佳作を受賞。(2013年10月)

# サークル・リーダーシップ・セミナー

平成26年1月25日(土)に平成25年度サークル・リーダーシップ・セミナーが実施され、課外活動団体の次期代表者延べ41人が参加しました。



若者の自殺防止を啓発する石元所長



目標を持つことの大切さについて語る坂田会長



グループ討議の様子

## 午前の部

講演：メンタルヘルス ー気づきとつなぎー

講師：徳島県精神保健福祉センター所長 石元康仁氏

## 午後の部

グループ討議

サークル活動におけるリーダーの役割について

講演：よりよいリーダーとなるために

～目標を持つことの大切さについて～

講師：株式会社あわわ会長 坂田千代子氏

## 学生表彰について

	氏名・団体名	所 属 ( 学 年 )	表 彰 事 由
前 期	鎮 革 院	生活・健康系コース (技術・工業・情報) 2年	日本産業技術教育学会学会賞 (論文賞)
	南郷 芙美 学部	小学校 図画・工作科 教育コース 4年	集英社 ジャンプSQ (スクエア) 第6回クラウン漫画新人賞 佳作
	左海 紗佳 学部	小学校 図画・工作科 教育コース 4年	徳島県主催 (全国公募) 「本四高速全国共通料金導入」に向けた キャッチコピー及びロゴマーク ロゴマーク部門 優秀賞
	志摩 遥 学部	中学校 美術科 教育コース 1年	徳島県主催 (全国公募) 「本四高速全国共通料金導入」に向けた キャッチコピー及びロゴマーク ロゴマーク部門 最優秀賞
	廣田愛実里 学部	中学校 保健体育科 教育コース 4年	第64回四国地区大学総合体育大会 陸上競技 女子走高跳 第1位
	久保こころ 学部	小学校 体育科 教育コース 1年	第64回四国地区大学総合体育大会 陸上競技 女子400m 第3位
後 期	西森 貴志 院	社会系コース 1年	ビブリオバトル (知的書評合戦) 首都決戦2013 特別賞
	横山 健太 院	生活・健康系コース (保健体育) 2年	第32回徳島県大学剣道選手権眉山杯大会 男子個人の部 優勝
	山口あずさ 院	生活・健康系コース (保健体育) 1年	第32回徳島県大学剣道選手権眉山杯大会 女子個人の部 優勝
	小西 矩子 学部	中学校 英語科教育コース 3年	第32回徳島県大学剣道選手権眉山杯大会 女子個人の部 第三位
	庄野 雄介 学部	小学校 技術科教育コース 3年	第29回全国教育系大学弓道選手権大会 男子個人の部 優勝
	石井 理彩 学部	小学校学校教育実践コース 3年	第29回全国教育系大学弓道選手権大会 女子個人の部 優勝
	大西 翔太 学部	中学校 社会科教育コース 3年	第29回全国教育系大学弓道選手権大会 男子個人の部 第6位
	栗田 昌幸 学部	中学校 技術科教育コース 3年	第20回県下大学弓道選手権大会 男子の部 第三位
	弓道部 (男子)		第29回全国教育系大学弓道選手権大会 男子団体 第三位

## 溝上賞

この溝上賞は、本学の第4代学長、名誉教授であります溝上 泰氏の功績をたたえる顕彰事業として設けられたもので、溝上氏から寄贈された基金によって運営されており、上記の学生表彰被表彰者のうち特に顕著な功績をあげた者の中から一人又は1団体を表彰するものです。

平成25年度の実賞は、次の方に決定しました。

西 森 貴 志 (社会系コース 1年)



# 行事予定

平成26年度前期

	行 事 等	備 考
前 期	4月1日(火)～4月7日(月) 春期休業	
	4月8日(火) 入学式	
	4月8日(火)～4月9日(水) 新入生オリエンテーション	4月23日(水)「履修登録」締切
	4月9日(水)～4月10日(木) 新入生合宿研修	※変更期間： 4月24日(木)～4月30日(水)
	4月11日(金) 授業開始	
	6月10日(火)～6月11日(水) 附属校園観察実習(3年)【附幼・小・中】	
	7月31日(木)～8月6日(水) 前期試験期間	※4月30日(水)は 火曜の授業を実施する。
	8月1日(金)～9月9日(火) 夏期休業(大学院)	
	8月7日(木)～8月22日(金) 夏期休業	
	8月23日(土)～8月30日(土) 集中講義	※5月9日(金)は 月曜の授業を実施する。
4 月 1 日 火 ～ 9 月 30 日 火	8月25日(月)～9月5日(金) 保育所実習Ⅰ(2年)【鳴門市内保育所等】	
	8月25日(月)～9月5日(金) 保育所実習Ⅱ(4年)【鳴門市内保育所等】	
	9月1日(月)～9月26日(金) 主免教育実習(3年)(長期履修生)【附幼・小・中、協力校】	
	9月1日(月)～9月12日(金) 教員インターンシップ(4年)【附幼】	
	9月1日(月)～9月30日(火) 教員インターンシップ(4年)【鳴門市内小中学校】	←期間中の2週間
	9月3日(水) ふれあい実習(観察実習)【学内】	
	9月8日(月) ふれあい実習(観察実習)【附幼・小・中】	
	9月9日(火) / 9月10日(水) ふれあい実習(交流実習Ⅰ)【鳴門市内幼稚園】	←どちらか1日
	9月22日(月)～9月29日(月) ふれあい実習(交流実習Ⅱ)【附特別支援】	←期間中の1日
	9月10日(水) / 9月30日(火) 集中講義(大学院)	
9月24日(水)～9月25日(木) 2年生合宿研修		

# 就職支援行事予定

※詳細は就職支援室で確認すること。

月	日時	時限	場所	事前申込	行事名等	内容(予定)
4月	10日(木)	3	B101	○	教員採用試験対策説明会(学内)	教員志望学生への指導・助言
		4	B101		教採対策ガイダンス(実践編)	(講) 集団面接・模擬授業・個人面接 (筆) これまでの教育改革、各種答申等Ⅰ
	中旬～下旬			○	教員採用試験説明会(教育委員会)	教員採用試験について
	16日(水)	4	B201		教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 各種答申等Ⅱ, 学習指導要領
	17日(木)	4	B104			
	19日(土)		B101	○	教員採用模擬試験	受験希望者(2回目)
	23日(水)	4	B201		教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 特別活動、健康・安全教育、食育、生徒指導
24日(木)	4	B104				
5月	上旬～下旬			○	教員採用試験説明会(教育委員会)	教員採用試験について
	7日(水)	4	B201		教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 教育法規
	8日(木)	4	B104			
	14日(水)	4	B201		教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 指導案と学習指導、学習方法、カリキュラム
	15日(木)	4	B104			
	21日(水)	4	B201		教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 道徳教育、人権教育、特別支援教育
	22日(木)	4	B104			
	24日(土)		B201他	○	教採実技ガイダンス(集団)	模擬集団討論(2回目)
	28日(水)	4	B201		教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 総合的な学習、環境教育、福祉教育、国際理解教育、 情報教育、キャリア教育
29日(木)	4	B104				
下旬			○	教採実技ガイダンス(音楽)	音楽実技(弾き歌い:2回実施)	
6月	4日(水)	4	B201		教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 教職教養Ⅰ(教育原理・教育心理・教育史)、一般教養
	5日(木)	4	B104			
	11日(水)	4	B201		教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 教職教養Ⅱ(教育時事)、時事問題、一般教養
	12日(木)	4	B104			
	18日(水)	4	B201		教採対策ガイダンス(実践編)	(筆) 適性検査(YG性格検査、内田クレペリン検査) (講) 一次審査・二次審査の準備と今後の対策
	19日(木)	4	B104			
	21日(土)		B101他	○	教採実技ガイダンス(個人)	模擬授業・個人面接(2回目)
	25日(水)	4	B201	○	教採対策ガイダンス(直前編)	神奈川県・川崎市・横浜市対策
26日(木)	4	B104	○	教採対策ガイダンス(直前編)	大阪府・大阪市・堺市対策	
7月	上旬			○	教採実技ガイダンス(美術)	図画実技(鉛筆素描:1回実施)
	2日(水)	4	B201	○	教採対策ガイダンス(直前編)	兵庫県・神戸市対策
	3日(木)	4	B104	○	教採対策ガイダンス(直前編)	徳島県対策
	上旬～下旬			○	教採実技ガイダンス(体育)	体育実技(ボール・器械運動:2回実施、水泳:2回実施)
	下旬～9月上旬			○	教採二次対策ガイダンス	

## 編集後記

退職される先生方、本学の発展にご尽力いただきましたこと、衷心より感謝申し上げます。先生方の益々のご健勝を祈念いたします。

卒業生・修了生の皆さん、おめでとうございます。スキー・ジャンプの葛西選手は、ソチ・オリンピックで銀メダルを獲得した直後、「4年後を目指す」と語りました。揺るぎない向上心には驚嘆させられましたし、物事を極めようとする営みには終わりが無いということを再認識させられました。皆さんも本学での授業や研究を通じて、飽くなき追求の重要性は十分理解されていることでしょう。どうぞ不断の努力を怠らず、自らの目標に向かって邁進していただきたいと願っております。(N.O.)

